



# 富士山大賞

二〇二〇 受賞作品歌集

第一回より審査委員長を勤めていただきました岡井隆先生は

令和2年7月10日に逝去されました。誠に寂しい限りです。

岡井先生のご安福を謹んでお祈りいたします。私たちは先生が

富士山大賞に寄せられたご熱意を引き継ぎ二層研鑽を重ねる所存です。

ここに岡井先生から受けた御指導に感謝し先生が生涯をかけて短歌の

文化振興に尽くされた御功績を顕彰すべく岡井隆記念賞を創設しました。

この賞は学生による最優秀作品に贈呈いたします。

富士山大賞実行委員会

大賞

貝のひも煮て秋祭待つ子等の  
来れぬ今年を富士青く立つ

山梨県 高村 和海

準大賞

れんげ田に日本蜜蜂とびかいて  
富士の裾野がくすぐったいぞ

埼玉県

古谷 眞利子

山頂はまだ闇の中

持ち替える杖持つ軍手が蒼く尾を引く

東京都

鈴木 正樹

岡井隆記念賞  
(学生優秀作品)

富士山の山小屋のあかりふたたびと  
コロナ終息の願いを込めて

山梨県 中村 萌英

優秀賞

強力（ごうりき）と立ち話する山小屋の隅（すみ）にひとむら雲の満ちたる

愛媛県 萬幸子

この夏は富士を太古に還らしむ人無く鳥と獣があそぶ

大阪府 丸野幸子

山梨の叔母の家までもう少しフロントガラスいっばいの富士

神奈川県 友常 甘酢

八合目友と思しき足元を照らし踏みしむ朝までの距離

大阪府 土田真弓

「富士見ゆる土地に農する」還暦を迎ふる君の夢は広がる

山梨県 檜山香澄

富士山の四時二十二分の来光へ星触れそうな真夜を登りぬ

山梨県 廣瀬妙子

「富士山が右にゆっくりうごいてる」初めてののぞみに乗る吾子が言う

東京都

後藤 克博

ドッコイシヨは六根清浄が語源とう頂上は直ぐ憧れの富士

山形県

高橋 まさじ

鳥も君も帰った砂場で夕映えの記憶の富士をまだ高くする

大阪府

小川 ちとせ

ストックを先に下ろしてうつき咲く急なる崖を腹ばひて降る

山口県

有田 絢子

兄とゆく十五歳（じゅうご）の夏の富士登山須走村でズック破りき

東京都

山室 美代子

学生優秀賞

富士登山小腹すいてかばん開け飛んでいきそうポテトチップス

山梨県

花上 真奈

朝が来てカーテン開ければ富士山がいつも私を見ていてくれる

山梨県

加藤 喬也

## 外国語短歌優秀賞

the air, oppressive  
our way ahead obscured  
by spreading clouds—  
even the mountain  
is wearing a mask

(大気はうっとうしく私たちの行く手は雲が拡がり見通せない山でさえマスクをしている)  
重苦しく広がる雲に我々の行く手は見え山もマスクす

Autumn Noelle Hall, USA  
アメリカ

Mount Kaputar\*  
in this haunt of eagles  
I sit above  
old lava scars  
and plan my new ikigai

\*Mount Kaputar ; Nandewar  
Ranges, New South Wales,  
Australia is in a country area

\*カプター山；オーストラリア、  
ニューサウスウェールズ州の  
ナドゥーワー山脈は田舎にあります

(鷲の舞うカプタ山の古い溶岩の裂け目に座し私の新しい「生き甲斐」を計画する)  
鷲のカプタ山——古き溶岩の裂け目にて立つる新しき「生き甲斐」計画

Beverley George, Australia  
オーストラリア

Covid  
closed the border between  
mother and son -  
no one attends the funerals,  
but the shade of a mountain

(コロナは母と息子の境を閉ざした—葬儀には誰の参列もなくただ山だけが影を落としている)  
コロナ閉じし母子の境—葬儀には参列者もなくただ山の影

Lavana Kray, Romania  
ルーマニア



## 外国語短歌佳作

until they're gone ---  
the autumn stars  
over the mountain  
show me how to give  
light to a new day

(頭上にある間中…山上の秋の星たちは新しい一日に  
いかに光をもたらすかを示してくれている)  
山上の秋の星座は新しき一日(ひとひ)に与うる光を示す

Michael McClintock, USA  
アメリカ

white flowers of  
water buttercup are blooming  
in a cluster  
on the Kakita river  
that springs from Mt. Fuji

梅花藻の白花群れて咲いてをり富士より流るる柿田の川に

Kimiko Miyahara, Japan  
日本

while ascending  
I think it sounds like great  
mountains are built  
beneath my fairest feet  
the spectacle of life

(登攀中大きな山が足下に形成されてゆくように感じていた—わが人生のスペクタクル)  
登山する足もとに山が生(あ)る響き—わが人生の大スペクタクル

Ernesto P. Santiago, Greece  
ギリシャ

Mt. Fuji  
still standing tall . . .  
after his death  
will I weather the rain,  
wind, and storm

(富士山はなお高く聳えている…彼の死後も私は雨や風や嵐に耐えてゆけるだろうか)  
富士山は高く聳ゆる…彼の死後 雨 風 嵐に耐えてゆけるや

Christine L. Villa, USA  
アメリカ

remembering  
my photo of Mt. Fuji rising  
taken from a high-speed train  
strengthens me  
in these days of confusion

(超特急列車から撮った富士山の写真を思い出すと最近の混乱の日々の私を強くする)  
新幹線より撮りたる富士の写真思い混乱の日々の我を強くす

Marilyn Shoemaker Hazelton, USA  
アメリカ

long path upwards  
each twist and turn  
step by step  
letting stones speak  
between each space

(長い登り道の折れ曲がったところにくる度に一足ごとに行く度に石たちに話をさせよう)  
長き登りの折曲ごとに一足ごとに小石たちに話をさせむ

John R Parsons, UK  
イギリス

I see Fujisan  
Standing all by itself  
Above clouds  
In the middle of Pacific  
As I approach Japan

日本へ近づけば富士が太平洋の真中に雲より高く立つ見ゆ

Kojima Yumeko , Hawaii  
ハワイ

mountain chapel  
wildflowers bow  
in hot wind  
I kneel  
praying for rain

(山上のチャペルで熱風のなか野生の花々は萎れていた私は雨乞いのため膝まずく)  
山のチャペル熱風に野の花萎れ雨乞いのため我膝まずく

Susan Rogers, USA  
アメリカ

the memory  
of climbing Mt. Fuji  
with the students  
takes me to the happy youth  
of the past

生徒らと富士山に登りし思い出は幸せな青春へわれを誘う

Ikuyo Okamoto, Japan  
日本

sunset gold  
highlights lofty peaks  
I'm thankful...  
another day with you  
wandering dusty trails

(黄金の日没は気高い峰々のハイライト—埃っぽい山路を歩きながら  
あなたと共にある明日に感謝する)

日没は気高き峰のハイライト—埃の山路に君との明日に感謝

Marilyn Humbert, Australia  
オーストラリア

sacred mountain path  
two dragonflies forge ahead  
their darting flight  
reflects my uphill  
search for breath

(神聖な山路に現れた二匹のトンボの激しい動きは  
息を切らしながら登る私の登攀を反映している)

山路に会いし二匹のトンボの激しき動き—息切らす我の登攀を映す

John Richard Parsons, UK  
イギリス

I climb towards  
The summit  
My paces short  
Only dark dense clouds  
Left bellow

(私は頂上に向かって歩幅小さく登っていくその下方を暗く濃い雲の塊が去っていった)  
頂上に向かい歩幅小さく登る下方を暗く濃い雲がゆく

Dejan Bogojevic, Serbia  
セルビア

Mt Fuji rest spot  
between the lines of  
camera-ready tourists  
a flustered pheasant  
noisily takes off

富士山の休憩所カメラを構える旅行者の列の間を慌てた雉がけたたましく飛び立つ  
(富士山茶屋にて) 登山者のカメラ構うる列の間より慌てし雉の騒ぎ飛び立つ

Barbara A. Taylo, Australia  
オーストラリア

a sunbeam  
pokes through the tree canopy  
of a mountain  
in the evening a cloud  
travels with the Moon

(陽光は天蓋となる山の木々の間を貫き夕べには雲が月と旅する)  
天蓋の山の木の間を日は貫き夕べは雲が月と旅する

Zlata Bogovic, Croatia  
クロアチア

I wish I could  
travel with my house cats  
to the foot of  
Mt. Tsukuba during  
the season of plum blossoms

ねこつれて旅に行きたし筑波山のすそ野あたりに梅花(うめ)の咲くころ

Yukiko Inoue-Smith, Guam  
グアム

walking a few steps  
on the rocky trail each time  
I stop to listen  
the fast pumping heart  
of a tired mountain

(岩だらけの小道を少し歩いては立ち止まり疲れた山の早い鼓動を聞く)  
岩の小道少し歩みては立ち止まり疲れし山の早き鼓動聞く

Ajaya Mahala, India  
インド

frozen stars  
in a warrior's sword  
Mt Fuji  
I too will taste  
your snow's depths

(勇士の剣に散る凍てつく星の群れ 富士山の雪の深さを私は味わおう)  
勇士の剣に凍てつく諸星 富士山の雪の深さを味わわむ

Dorna Hains, USA  
アメリカ

佳作

ダイヤモンド富士見るためにここに来た身を切られつつその瞬間を待つ 大熊佳世子

朝焼けの富士助手席の窓開けてシャッターを切る君の黒髪 細田 泰司

北斎の男波富士を呑まんとす遠近法の著けき筆に 利長さだお

ライチョウの親子見つけた子は子へと見開いた目を伝染させる 浦上 紀子

「富士を見て」友は一言で電話切る窓を開ければ薔薇色の富士 駒井 春美

月光の深い静寂に洩れて出る山小屋からの赤いサラファン 中井 久子

山の手の東京人はあくがれし富士見とふ名の街に住むこと 福田 正人

冬になると近づいてくる富士の山 この世で一番美しいのは？ 高橋 香子

青空にホップステップジャンプするタッチできそうね富士山頂なら 風間 勝治

帰ってきた ほっと喜びわき出ずる車窓の富士は母恋うる山 壹谷 静恵

亡き祖母の金剛杖をもつていくわれは初めて杖は三度目 金子 歩美  
手をのばし車窓の富士をつかまんとすれどたちまちビルに阻まる 森田小夜子  
開くなく閉ぢることなく夏山は終はりぬコロナ禍さざめく中に 下田 裕子  
富士山の躰のあたりを向き眠らん今日下山して襪褌のごとくに 江越 國弘  
水晶に靈峰富士が彫り込まれ工芸展のライトに浮かぶ 永井 英男  
幼き日友と啜りし蜜を抱く山の麓の花の搔練 三浦 優

密のない国の行く末描くごとと孤高の峰を下る稜線

風野 瑞人

葉の青き大根ずらり干す間より富士山望む透明な朝

久和 鏡子

一億座の富士山がある一億の日本人の心の中に

富野光太郎

山小屋のにぎやかな夏の想い出が灯らず富士もさびしいだろう

黒乃 響子

聳え立つ富士を枕の岩鏡霧の腕に熟睡ぞすらむ

雅風子

父おくり機窓にはるか梅雨の富士雲に抱かれゆっくりと消ゆ

高井 勝巳

コロナ禍で十階までを階段で食堂から見ゆ冠雪の富士  
市之瀬 進

みずうみに映る富士山鴨たちがグワツグワツと壊しておりぬ  
市川 光男

手毬ほどの雪が雪崩を呼び起こし山容けぶる三月の富士  
芳賀 辰雄

富士山にいつか二人で登らむと約せし君は写真に笑まふ  
鈴木 紫乃

逃げるように下り列車にとび乗れば右手はるかに夕影の富士  
高尾 恭子

富士山の裾野広かりサリン造り十三人の死刑もありき  
川出 香世子

新築のビル建ちならびみな消ゆる山手線から望む富士の嶺  
木立 徹

新緑の青木ヶ原の樹林にて遠音に心震わす休日  
清水 将一

ふるさとは四方(よも)連山のその上に富士の嶺あり日の出づるなり  
前橋 誠

富士山が手招きすれどわれらみな地団駄踏んで見るだけの夏  
中澤 明子

何人も死者を麓に呑んだまま墓標となって富士は従耳える  
相川 高宏

突然の雨と風にて九合目で降りしを惜しむ八年経ても  
村松とし子

家族旅いやがり富士へ行かずなりし十五の時を父に詫びぬまま  
塙 直美

「富士を見て」友の電話はそれだけで外は黄昏お山は茜  
駒井 春美



何人の手に渡ったのか千円札本栖湖に映る逆さ富士山 秋山 克己

ふんわりとビールの泡は富士山の切り子ガラスの頂に乗る 鷺田ひさみ

雪どけのかそかな音を富士は秘む咲耶姫吹くと透きとほる笛 清野 晴

失敗を夫に話しつつ帰る道信号渡れば大き富士在る 真田 幸代

窓外に富士山見えてもどらない決意と切符確かめた夏 馬場 美江

富士の山憧れついに母登り踏んだ蹴ったねごめんねと言う 辻本 智江

燃ゆるごと鮮やかなりきななかまど再び行かむか夫と二人で 丸田 和子

電車待つ向かいのホームの屋根越しにうすぎぬまとう富士頭(あら)わるる 辻本 和美

## 学生佳作

富士山の頂上標を立て起こし写真を撮りてもう半世紀 山本 繁徳

現在の富士の姿は変わらぬが富士の見方は変わり続ける 上條 良輔

明日の晴れ願って荷物整える仲間と登れる喜び共に

嶋崎 美月

富士山が食べ物だったらいいのになすいとんみたいな味がしそうだ

渡辺 稟果

家を出て駅まで歩く寒い朝白い服着た富士と目が合う

藤江 綺羅

夕焼けの中に浮かんだ赤い富士帰路の寂しさ拭う煌めき

安留 沙希

汗拭い息を荒げて三つ峠諦めるにはまだまだ早い

白鳥 希

富士山と共に過ごして16年今は近くて何も感じず

水越 萌媛

あの山に鳥が舞い降りるその時期はみんなで明日の食べものづくり

伊藤 花純

北さいの富士の角度は三十度私の富士は聖三角形

伊奈 柚貴

蛇行するイルミネーション今年なし照らす光は月明かりだけ

渡辺 矢茉都

日が昇り自転車の音響き出す霊峰めざし強める力

奥脇 由季

【選者】

選考委員長  
選考委員  
三枝昂之（山梨県立文学館館長、日本歌人クラブ会長）  
穂村 弘（日本経済新聞歌壇選者）

東 直子（東京新聞歌壇選者）  
外国語特別審査員  
苅田吉夫（元ニューヨーク総領事 元宮内庁式部官長）

結城 文（国際タンカ協会会長）

【開催団体】

富士山大賞実行委員会

NPO 法人富士山自然文化情報センター

NPO 法人富士山クラブ

世界連邦文化教育推進協議会

全国富士講睦会

一般財団法人 徳大寺文庫

【後援】

外務省 経済産業省 環境省 文化庁 富士山世界遺産国民会議 國學院大學

【映像協力】

富士山世界遺産センター 山梨県 ロッキード中